

令和6年 5年生

絆～きずな～新聞

競技に、係に、応援に！

高学年として迎えた運動会

5月18日（土）、晴天の下、運動会が行われました。

いつもより1週間早い本番。短い練習時間の中でも、子どもたちは一人一人がめあてをもって臨み、本番を迎えました。

高学年になった5年生の子どもたちは、自分の競技の他に、運動会の運営を担う係活動にも精を出します。

運動会が始まると、開会式の司会、応援団、全力走のゴールテープを持つゴール

係、順位を伝える決審係、得点を記録する得点係、そして、目立たないところでも大活躍だった児童係(1,2年生が安心して運動会を行えました)・・・と、自分の競技の前に一人一人がそれぞれの場所で存在感を示していました。

5年生の競技は、全力走と団体種目です。どちらも練習の成果を十分に発揮し、全力で競い合う姿に胸が熱くなりました。

コロナ禍から続いている前後半で行う運動会に、初めてすべての時間を校庭で過ごした子どもたち。運動会が終わって教室に戻ると、「つかれたー」「楽しかった！」「負けて悔しい」「初めて優勝した」など、充実した表情で感想を伝え合っていました。



【人生芸夢】～光岡の気まぐれコラム～

サンゴのきれいな暖かい海で、岩や砂に紛れて、小魚やエビカニ類が近づいて来るのをじっと待っているオニダルマオコゼという魚がいます。姿が岩の色や形にそっくりで、背びれには人を死に至らせるほどの強い毒を持っており、とても危険な存在です。そんな危ない魚に、勇敢にも近寄っていく魚がいます。オニダルマオコゼのえさとなるスズメダイなどの小魚たちです。彼らは、食べられてしまうことを恐れず、一匹、二匹と近づき、オニダルマオコゼの周りを泳ぎ始めます。「僕たちの敵がいるぞ」と周りの魚に知らせる『モビング』と呼ばれる行動で、見つかってしまったオニダルマオコゼは、仕方なくその場を離れていきます。そうして自分たちの安全な場所を保つスズメダイたちは、よりよい人間社会にも通じるものがあります。

「一人では何もできなくても集まれば大きな力になる」「悪いことは悪いと言える」そんな関係を築き、一人ひとりが勇気をもって生きていく。「がんばれ！君は一人じゃないんだよ」と、すべての人にエールを送りたい。